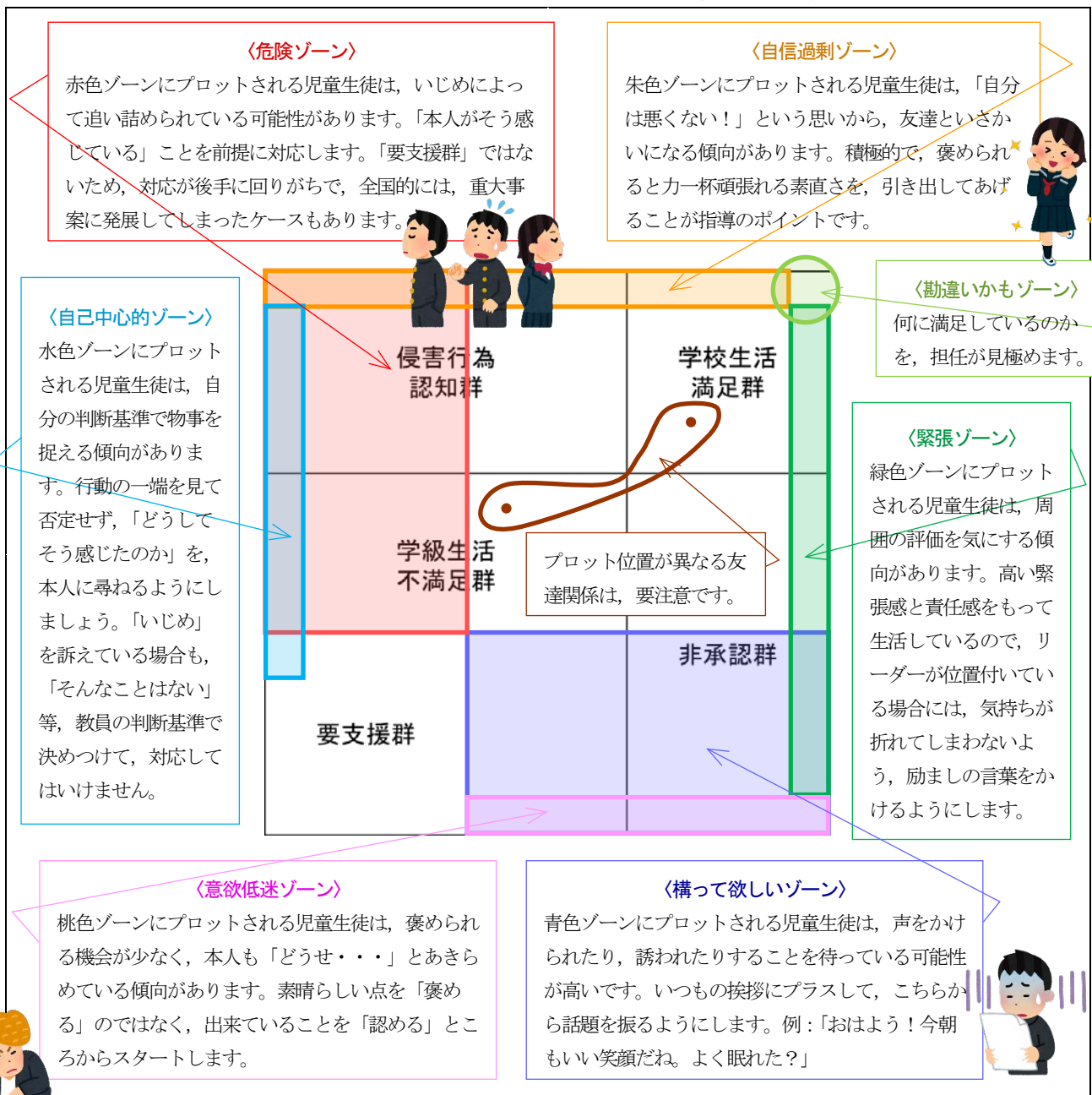




教職員支援グループ（研究・研修）より

夏季休業中に、「だれもが研修（2）Q-U調査結果を生かした学級経営」を実施しました。事後のアンケートでは、— 体育大会等の行事もありましたが、プロット位置から、声かけや支援が特に必要だと言われていた生徒に対して、意図的な関わりをもつことができました。協議で指摘を受けた、学級規律の確立に向けて、担任からの働きかけを強くしたところ、生徒が、自ら関わり合いながら、ルールを意識して活動する姿が増えました。—という感想を頂きました。研修は、「きっかけ」に過ぎません。前述の感想を寄せられた先生は、「きっかけ」を「チャンス」にかえらえる、教師力の高い先生と言えます。本紙には、講師の中谷圭子先生からご紹介頂いた「Q-U調査結果分析に関する最新情報」を掲載します。機会を捉えて、もう一度、見直してみましょう。



教職員支援グループ（少年支援）より

＜感動をありがとうございました＞

雨や台風など天候の影響が心配されましたが、保護者や地域の方に見守られ、素晴らしい体育大会・運動会であったと感じています。教育総合研究所としましても、市内各小中学校の体育大会・運動会を参観させていただきました。仲間と心をひとつにして取り組んだ各種目、一糸乱れぬ応援合戦、責任をもって係の仕事をする姿など、子どもたち一人ひとりが輝いていました。これも一重に、先生方の日常からの情熱的かつきめ細やかな指導あってのことです。感動をありがとうございました。

＜節目の時期だからこそアンテナを高く＞

さて、体育大会・運動会で付けた力を確認し課題点を見つけた上で、中学校では合唱などの文化的行事、小学校では社会見学や収穫祭など、次の行事を見据えて指導に当たられていると思います。子どもたちは期待に胸を膨らませ、新たな目標を立てて向かっていくことでしょう。

しかし、子どもたちにとって不安なこともあります。例えば、後期の組織づくりによる交友関係の変化や、だんだん難しくなっていく学習。特に中学3年生には、進路という大きな岐路がより身近に感じられる時期になります。

また、目標を見失うこともあります。部活動でレギュラーに選ばれなくて自信をなくしてしまうことや、SNS でつながった相手と安きに流れ頑張ることに価値を見出せなくなることもあります。

ほんのちょっとしたことが、大きな苦しみや問題行動につながることもあります。問題行動は(いじめや不登校も同様ですが)、とりわけ初期の対応が大切です。まずは子どもたちが無意識に発しているのサインを見逃さないよう、感性を磨きたいものです。

◇問題行動の前兆となるサイン（例）

1 身体的な変化や欠席の様子

- 身体症状を訴えるなどし、保健室や職員室に行く回数が増える。
- 理由をつけて部活動を休みがちになる。
- 遅刻や早退が多くなる。
- 休日の次の日などの欠席が多くなる。
- 特定教科のある日の欠席が多くなる。

2 学校生活での様子（個人）

- 授業に集中しない。
(授業中寝る・挙手がない・反応がない)

- 忘れ物が多くなる。宿題をしない。
- 活気がなくなり、無気力になる。
- 友人と遊ばなくなる。
- 教科書をもたずに教室移動をする。
- 授業や掃除など、いつも時間に遅れてくる。

3 学校生活での様子（集団）

- あいさつ、礼がいい加減になる。
- 手紙回しをしたり仲間と目配せしたりする。
- 私語が止まらない、うるさい。
- 先生の注意の声を無視したり、むっとした顔をしたりする。

問題行動に対しても、担任の先生一人で抱え込むのではなく複数の職員で協力して取り組むことが大切です。まずは学年主任や生徒指導の先生に相談して情報を共有し打つべき手立てを考え、校長先生や教頭先生に助言を仰ぐとよいと思います。

＜君がそんなことするはずがない！＞

子どもの変化に気付き、素早く対応したことで早期解決できたY先生の事例を紹介します。

K君は自転車通学者で、必ずヘルメットをかぶって登下校します。

ある夕方、ヘルメットをかぶらずに自転車に乗って校門を出ようとするK君を見かけました。Y先生はすぐにK君を呼び止めました。K君が少し投げやりな雰囲気だったのに気付いたY先生は、K君に正対し目を見て「校門付近で、しかも教師がいる前でノーヘルだなんて、君がそんなことするはずがない。何があった？」と尋ねました。するとK君はポロッと涙を流しました。些細なことで言い合いをして、友達との仲がこじれてしまったことを後悔していたとのことでした。

Y先生はすぐにK君を担当のところへ連れて行き、事情を説明しました。担任の先生は相手の子からも事情を聞き、お互いに悪かったところを認め合い、すぐに仲直りできました。

今回のY先生の対応から、①普段から子どもの様子をよく観察すること、②心に響く言葉を投げかけること、③子どもの困り感にすぐ対応すること の大切さを再認識することができます。

次の日、Y先生が校門に立って下校指導をしていると、しっかりヘルメットをかぶり笑顔で挨拶するK君が通り過ぎていきました。

＜教育総合研究所にかかわる10・11月の行事＞

10月 3日 (火)	人権・同和教育幹部研修会
10月 5日 (木)	第2回少年支援員研修会
10月 16日 (月)	第2回教育研究会部長会

10月31日 (火)	第3回教科研 (小中合同)
11月 1日 (水)	ほほえみ教室宿泊体験 (~2日)
※第2回これから研修 各校にて実施 (10月中)	